

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和 年 月 日

計画の名称	山形県緊急治水対策プロジェクト河川における再度の氾濫防止対策（防災・安全）																
計画の期間	平成30年度～令和02年度（3年間）			交付対象		山形県											
計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年、26年と2年連続で甚大な浸水被害が発生した南陽市の吉野川において、効果的な河川施設整備を行い、再度災害防止を図る。</li> <li>平成25年に甚大な浸水被害が発生した鶴岡市の黒瀬川において、効果的な河川施設整備を行い、再度災害防止を図る。</li> </ul>																
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉野川において、河川施設整備によりH26年7月豪雨と同等規模の洪水に対して、浸水戸数を2,325戸から0戸に減少させる。</li> <li>黒瀬川において、河川施設整備によりH25年7月豪雨と同等規模の洪水に対して、浸水面積を15haから13haに減少させる。</li> </ul>																
定量的指標の定義及び算定式							定量的指標の現況値及び目標値				備考						
							当初現況値 (H30当初)	中間目標値	最終目標値 (R2末)								
	吉野川：平成26年7月豪雨の浸水戸数実績を当初現況値とし、同等規模の洪水における、河川施設整備後の想定浸水戸数を最終目標値とする。						2,325戸		0戸								
	黒瀬川：平成25年7月豪雨の浸水面積を当初現況値とし、同等規模の洪水における、河川施設整備後の想定浸水面積を最終目標値とする。						15ha		13ha								
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	5,097 百万円	A	5,097 百万円	B	- 百万円	C	- 百万円	そのほか関連する事業 (D)	- 百万円							
<b>事後評価（中間評価）</b>																	
○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期																	
事後評価の実施体制						事後評価の実施時期											
第三者委員会である「山形県公共事業評価監視委員会」から意見を聴取り評価を行う						整備計画期間の翌年度											
						公表の方法											
						ホームページによる公表											
1. 交付対象事業の進捗状況																	
交付対象事業																	
A1 河川事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	事業及び 施設種別	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考	
											H30	R1	R2	R3	R4		
A1-1	河川	一般	山形県	直接	山形県	広域河川(D)	改修	吉野川広域河川改修事業	築堤、掘削護岸L=7.9km、附帯工	南陽市						4,613	
A1-2	河川	一般	山形県	直接	山形県	広域河川(D)	改修	京田川（黒瀬川）広域河川改修事業	築堤、掘削L=0.86km、附帯工	鶴岡市						484	
											合計				5,097		
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考		
											H30	R1	R2	R3	R4		
番号	一体的に実施することにより期待される効果																
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考		
											H30	R1	R2	R3	R4		
番号	一体的に実施することにより期待される効果																
その他関連する事業																	
事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	事業及び 施設種別	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考		
											H30	R1	R2	R3	R4		
											合計						
A'	0 百万円	B'		C'	(C+C') / ((A+A') + (B+B') + (C+C'))												

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する  
交付対象事業の効果の発現状況

吉野川において、平成26年7月豪雨における被災流量相当の流下断面を確保することで、同規模の洪水を安全に流下させることができるようになり、治水安全度が向上した。  
黒瀬川において、平成25年7月豪雨と同規模の洪水を安全に流下させることができるようになり、想定浸水面積が減少した。

II 定量的指標の達成状況	指標①	最終目標値	0 戸	目標値と実績値に差が出た要因	目標を達成した。
		最終実績値	0 戸		
	指標②	最終目標値	13 ha	目標値と実績値に差が出た要因	目標を達成した。
		最終実績値	13 ha		

3. 特記事項（今後の方針等）

- ・ 今後、堤防や護岸の整備、河床洗堀の恐れがある箇所への河床低下対策等、引き続き整備を進めていく。
- ・ 平成30年8月豪雨、令和元年東日本台風、令和2年7月豪雨、令和4年8月豪雨など、県内各地で毎年のように記録的な豪雨が発生していることから、国・県・市町村等、流域のあらゆる関係者が協働し、ハード・ソフト一体となって流域全体で被害を軽減させる「流域治水」を推進していく。

河川整備について、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」予算を活用し、令和2年度からの概ね10年間で集中的に実施していく。